

石橋商店街で“アソベ”！

ASOBE

学生×石橋商店街

学生と商店街が一つになって
より良い未来を目指すオープンイノベーション



学生×石橋商店街=∞

石橋商店街オープンイノベーション

学生と商店街が一つになって より良い未来を目指す

石橋商店街は、戦前に阪急電鉄の石橋駅(現石橋阪大前駅)が完成して以来、店舗数が増えてきました。現在では、約250mの距離に飲食店や小売店を中心に約300店舗が軒を連ね、近隣にお住いの幅広い年齢層の方にお買い物をしていただいています。

今後も商店街として新たな魅力を創造していきたいと考えています。しかし、商店街だけでは実現できないこともたくさんあります。そこで、商店街の新たな魅力を生み出すために、学生とのオープンイノベーションを進めています。

石橋商店街で 『やってみたい』を実現。

商店街でどんなことができたらいい？
あんなことやこんなことができたら……。
そんな思いを、みなさんと一緒にカタチに
していきたいと考えています。

石橋商店街での挑戦を 力いっぱい応援します。

皆さんのアイデアや、チャレンジしたい
ことの実現に向けて、石橋商店街は全力で
サポートすることをお約束します。

学生の皆さんの、石橋商店街でのチャレンジを大募集！

石橋商店街で挑戦してみたいことをご連絡ください。

一緒に実現させていきましょう！

※返信までにお時間を要する場合がございますので、予めご了承ください。

https://www.ss-ishibashi.jp/open_innovation

TEAM
EXPO
2025

いどもう。みらいに。
“共創チャレンジ”

この取り組みは、「TEAM EXPO 2025」プログラムが定める、
「共創チャレンジ」の取り組みにも登録されています！

右のQRコード
(左記URL)にある
フォームから
お申込みください



学生さんと商店街との関係を 十年後も維持していきたいですね。

学生さんと活動していくことで
商店街も元氣になりました。

そもそも石橋商店街にはこれといった名物が無く、アピールする方法に困っていました。何かあるとすれば大阪大学が近くにあるという点なんですが、そのことをどう活かしたらいいのか、阪大生の知り合いもないし、思いつかなかったんです。

あるとき、大阪大学経済学部在学生さんがゼミの課題で「商店街はどのように運営されているのか」という話を聞きに来てくれました。そうだったことが、商店街と学生さんで、様々なことにチャレンジしていくきっかけになりました。

学生さんたちと色々話している中でスタートした『えびす男遊び@阪大坂』という、

阪大に向かう坂道を駆け上がり、その年のまち一番の福男、福女を決めるという商店街と阪大生との共同企画イベントが、十年以上続いていることを思うと感慨深いですね。

商店街をきれいにしないと
言われるんです(笑)

一部の学生さんに「これ以上、商店街をきれいにしないでください」といわれます(笑)。

これは、決して「ミミ」が落ちていたり、街が汚れているという意味ではありません。学生さんからすると、昔ながらの雰囲気、商店街や商店街の人々と過ごす時間が、整備された商店街でのそれよりも、気に入ってくれているということのようです。

商店街と学生さんとの関係や学生さんたちが気に入ってくれている商店街の現状を、十年後も維持するには、区画開発などとはまた違う努力が必要だと思います。

阪大に限らず、学生さんとの交流の時間は、今後の石橋商店街について考えるきっかけにもなるので続けていきたいですね。

石橋商店街は、イベントが盛りだくさん

石橋商店街では阪大生を中心としたサークル「石橋×阪大」の皆さんをはじめ、阪大以外の学生の皆さんとも一緒に、数多くのイベントを企画し開催しています。

これらのイベントは、近隣住民の方々と学生の皆さんとの交流にもなっており、また、様々なコラボレーション企画を通じて、学生の皆さんには、商店街を“実験”の場として活用していただきながら、商店街を中心とした地域活性化に繋がっています。

■ 㚑びす男選び@阪大坂

大阪大学経済学部松村研究室と石橋商店街が共同で企画運営する、通称“阪大坂”と呼ばれる300メートルほどの激坂を駆け上がるイベント。

レース後には餅つきや雑煮の炊き出し、商店街のお店が用意した商品などが数多く当たる抽選会も開催してる。

阪大生と地域住民間の交流を生み出し、地域を活性化させる取り組みとして繋がりを深めている。



■ 夏合宿in石橋商店街

商店街と阪大生がコラボして実施する1泊2日の宿泊体験イベント。

阪大生と一緒に銭湯の掃除をしたり、夏休みの宿題をしたり、夜ご飯を作ったりします。

商店街の店舗で阪大生と一緒に就寝し、パン屋さんで朝ご飯も自分たちで作ります。

商店街を楽しみ尽くす1泊2日です



■ 㚑びす男選び@阪大坂

阪大生による団体「もったいないーと」が食品ロスを減らすことを目的に、商店街でその日に売れなかった物をくるる石橋に集めてお得な価格で販売。会社帰りの方など、普段商店街を使わない層にも好評



■ 阪大コーヒ一愛好会

阪大のコーヒ一愛好会が、くるる石橋で出展！
普段の活動成果を地域の人に見てもらおう機会に



おはこ文化祭は、“阪大で行っている学祭を、石橋商店街にもってこよう！”という想いで、開催されるイベントです。石橋商店街内「くるる石橋」を拠点に活動している阪大生による団体「石橋×阪大」が中心となって『商店街と大学・地域をつなぐ』という目標のもと主催し、今では阪大生以外の学生や地域の団体も参加し、地域からも愛されるイベントになっています。



Ⓛ 応援団、書道部のパフォーマンスなど
大阪大学学祭名物のステージがおはこ文化祭でも楽しめます

おはこ文化祭は、毎月18日に「おはこ市」が開催されています。「石橋商店街」といえばおはこ市と言われるほど、地域住民に親しまれている恒例イベントで、毎月異なる商店街内の4店舗が、これぞうちの十八番という商品を、とてもお得な価格で提供しています。

おはこ文化祭の
「おはこ」ってどういう意味？

「おはこ」は漢字で「十八番」と書きます。

歌舞伎の市川家代々の芸、十八種を選定した

『歌舞伎十八番』に由来し、十八という数字は

『必要なものすべて』という意味から定められ

たとか。まさに多くの得意事、自慢事が商店街

で発表される文化祭です。

石橋商店街では、毎月18日に「おはこ市」が

開催されています。「石橋商店街」といえばおは

こ市と言われるほど、地域住民に親しまれて

いる恒例イベントで、毎月異なる商店街内の

4店舗が、これぞうちの十八番という商品

を、とてもお得な価格で提供しています。

おはこ文化祭では
どんなことをやってるの？



Ⓛ お買い得商品も盛り
だくさん。まさしく学
祭気分で食べ歩き

大阪大学の学祭名物のステージもおはこ文化祭で実現しています。応援団による演舞、書道部のパフォーマンス、阪大マイケルジャクソンのダンス研究会のダンス、マンドリンクラブのライブ、落語研究会の寄席など、楽しいステージが1日中行われます。また、阪大レゴ部の「作品展示・レゴで遊ぶコーナー」、芸術研究会の「テーブルマジック」、写真部の「写真展」、手話サークルの「手話体験」、本屋サークルの「古本販売」、天文同好会の「太陽観望会」など、ユニークなブースが商店街の店舗を会場に出展しています。

当日の商店街での出展だけにとどまらず、

その後、商店街と学生との縁が繋がります。文化祭以外でもコラボレーションが生まれています。

現役阪大生

阪大OB

座談会 Report

地域での人とのつながりを
大切にしたい

「リアルな生活が感じられる商店街という場所、そこで生活をしている人に触れていきたい」という思いがありましたね。そう語るのは、今回の座談会に参加いただいた阪大OB。近年の都市開発などの影響で、昔ながらの姿を残している商店街は少なくなつた。昔ながらの姿が残っている石橋商店街には、その地域での人と人とのつながりも残っているとも言つことができる。学生の皆さんは、

商店街とのイベントにかかわっている 学生の方々の座談会をのぞいてみましょう

商店街と学生の交流が盛んである石橋商店街。若い世代の皆さんは、商店街とのつながりについてどんな思いを持っているのでしょうか。学生たちが、商店街について熱く語っている現場にお邪魔しました。

そんな雰囲気を感じたのかもしれない。学生の中には、石橋商店街のように活気ある商店街が近くにあることが新鮮という



▶ 現役阪大生で「石橋×阪大」の代表を務めている中村太一さん。サークル活動で得た知識などを出身地高松の活性化に活かしたいとのこと

意見や、学生と地域の人々との交流に興味を持ったという意見、またはイベント運営に携わった経験を商店街での活動に活かしたいというもので、様々な想いが飛び出した。いずれにしても、地域の人々とのつながりがこれらの意見や行動の受け皿となっていることを強く感じる。

特に印象に残った意見は、入学してすぐにコロナの影響でリモート授業がはじまり、はじめてのひとり暮らしで、すごく寂しい思いをしたが、商店街との交流を



▶ 当日の座談会に駆けつけてくれた「石橋×阪大」のメンバーの方々。それぞれに色々な立場や思いからサークルに参加し、石橋商店街の皆さんや他のサークルメンバー、卒業生と共に毎日楽しく活動されています

通して、地域活性化の協力をしたくなったというものだ。コロナ禍でも地域のつながり力を発揮するのだろうか。

石橋商店街での経験を
他の地域でも活かしたい

石橋商店街で活動した経験を地元でも活かしたい、こう語る学生たちもいる。

「地元の商店街が好きなんです。地元に戻ってそこで何かやりたいと考えているので、良い経験になるかなと思って、参加するようになりました」また「将来は地元に着陸した活動をしたと思うので、こういった活動を通して何か学べたらと思っています」

これらの意見は、学生と地域とのつながりが石橋商店街だけにとどまらない想いの躍動を生んでいると感じられるものだった。地方ではシャッター街と呼ばれてしまつほど、活気のない状態の商店街も多い。石橋商店街での活動を通して、学生たちが新たな地域活性化の形を生み出してくれることに期待せずにはられない。

石橋商店街にある
素敵な魅力

学生の皆さんが、商店街での活動を通して経験を積んでいるのと同様に、商店街の人々も学生たちと共に学び活動している。商店街の人も学生と一緒に何かをやろうという気持ちを持ってくれているので、「一緒に行動していて楽しい」と学生の一人は語ってくれた。

学生の皆さんは、石橋商店街に対してアットホームさを感じている。活動が生活に密着していて、卒業後も商店街との関係が続いている先輩がいるのは他のサークルなどでは珍しいという意見も上がった。商店街にボス



▶ 大阪大学の学生も利用する石橋商店街は、阪急石橋阪大前駅を中心に広がる、どこか昭和の雰囲気を残し親近感のある商店街。ただ近代化をすすめるだけではなく商店街活性化のヒントがあり、他府県の商店街からの視察も多い

の場でもありますね。学生が入ることで、売買だけではなく違った価値提供が地域で生み出していることが、石橋商店街が注目されている理由だと思います。学生の頃に活動に参加して一度就職したけれどまた商店街に戻ってきた人もいます。その人にとって、石橋商店街での活動を通じて得た地域との繋がりが印象深くとも魅力的だったからだと思います」

今回の座談会に参加して、商店街を通じて地域の人々と学生たちがつながり、お互いの魅力を引き出し合うことに商店街の未来を感じた。



▶ 「石橋×阪大」のOBでもある浅田さんは、現在は石橋商店会事務局として活動し、学生達の良き相談相手として活動に協力している



石橋商店街で“アソベ”!

ASOBE

学生×石橋商店街



公式ホームページ



📷 公式Instagram



📘 公式Facebook



🐦 公式twitter

石橋商店会

TEL : 072-761-1576 FAX : 072-761-4949